

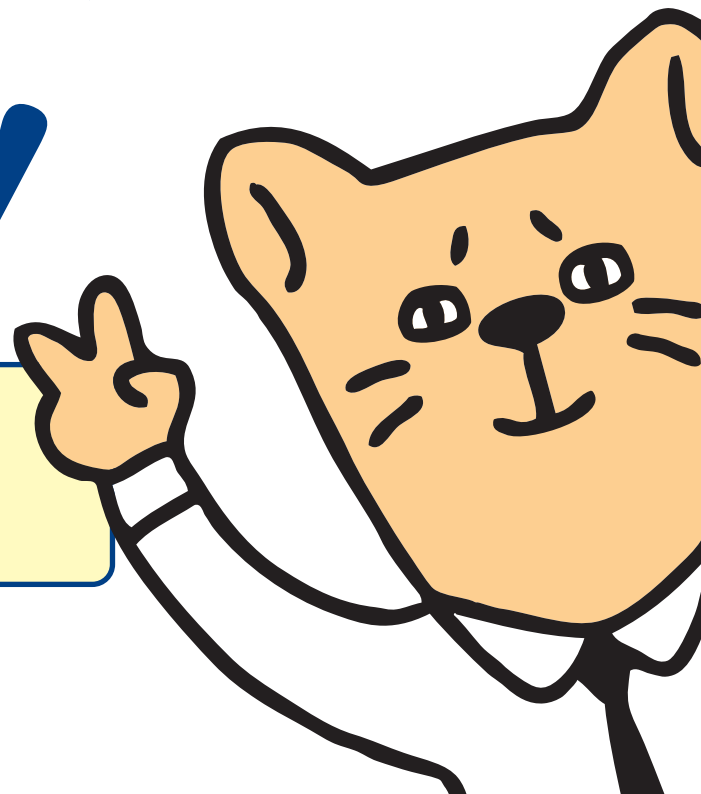
インフラ&アプリ担当者の“今”と“これから”のために。

「WaaSモデルの要点」を

Q&Aでノパンッと
押さえる!



Windows 10 イチから導入ガイド 2
～ WaaSモデルへの対応（インフラ&アプリ編）～



Windows 10 イチから導入ガイド 2

～ WaaS モデルへの対応（インフラ&アプリ編）～

IT のコンシューマ化、高度化するセキュリティの脅威、ワークスタイルの変化…。こうした時代の変化に対応するために、Windows 10 では、新しい機能（機能追加や機能強化）をいち早くアップデートとして提供する「WaaS (Windows as a Service) モデル」に変わりました。本ガイドでは、Windows 10 導入に際して、企業のインフラおよびアプリ担当者が直面するお悩みに答える形で、WaaS モデルへの対応の要点をご紹介します。



さあ、フレキシブルワークスタイルへ

テン先輩：なんだい相談って？

七岡くん：実はうちの営業部長…僕が尊敬する方です…から
「もっと自由な働き方ができる環境を実現してほしい」と言われまして。
社内はもちろん、カフェでも、自宅でも、いつでもどこでも
デバイスを使って仕事ができる、えーと、フレキシ…

テン先輩：フレキシブルワークスタイルだな

七岡くん：そうです、フレキシです。

で、テン先輩、話してましたよね。

Windows 10 でそんな環境を実現したって。

だからうちも導入しようと思ったんですが、

WaaS モデルへの対応とか…

もう何から手を付ければいいのか。

テン先輩、助けてください



いつでもどこでも
もっと自由に快適に
仕事ができる環境を！

まずは、導入の目的を明確に

テン先輩：なるほどな。

なら、まずは Windows 10 導入の目的を明確にすることだ。
予算を確保するうえでも、どんなメリットが提供できるのか、
目的を明確にすることは重要だ

七岡くん：目的の明確化ですね？

テン先輩：代表的な導入の目的は3つある。

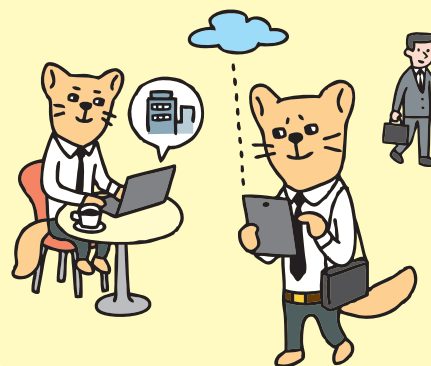
Windows 10 の導入で実現される
「セキュリティ強化」、「モバイルワークスタイル」、
そして「多彩なデバイス活用」だ。

この目的を明確にして検討しないと、
単なる OS の入れ替えで終わってしまうぞ

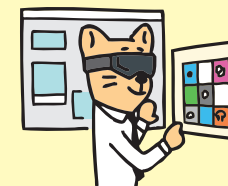
七岡くん：よく分かりました。

でも、まだ、WaaS モデルへの対応
という悩みがありまして…

モバイルワークスタイル



多彩なデバイス活用



セキュリティ強化



予算確保のためにも
導入目的を
明確にしておこう

しかし、WaaS モデルへの対応が…

テン先輩：WaaS モデルへの対応は IT 担当者共通の悩みだな。

「Windows 10 導入は、単なる OS の入れ替えではなく、WaaS、すなわち継続的に最新化されていく IT インフラへの移行」だって、赤間っちも言ってたしな

七岡くん：アカマッチ？

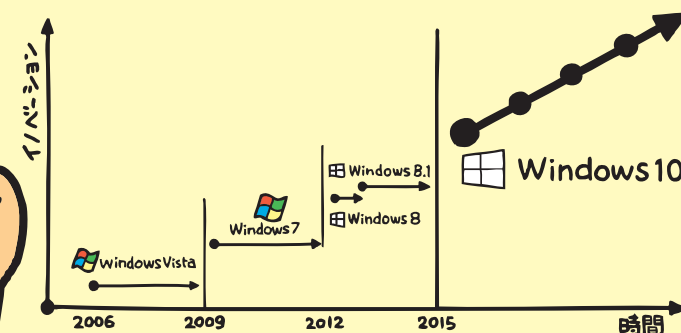
テン先輩：俺の飲み友達。マイクロソフトのコンサルで、

「とあるコンサルタントのつぶやき」って Blog でも

WaaS についてものすごく詳しく語ってて、

どこがつぶやきだよ、つぶやきすぎだろって… ま、とにかく WaaS だ。

ちゃんと理解して準備すれば、別に怖がるようなものじゃないんだよ



WaaS を理解しないと
先には進めないな…
よっしゃ 任せとけ！

代表的な Windows 10 導入の目的とは？

1. セキュリティ強化

- 最新・最高レベルのセキュリティを持つ OS の活用
- 単一のプラットフォーム利用（運用環境の合理化とコスト削減）

2. モバイルワークスタイル

- ホワイトカラー（知的労働者）の生産性を改善
- Windows 10 の多彩なデバイスとクラウドサービスの融合

3. 多彩なデバイス活用

- 多彩なフォームファクターをシングル OS・シングル UX で実現
- UWP により、デバイスごとのアプリ重複開発を回避

この辺の詳細は Blog で
赤間っちが語りまくってるから
チェックしてくれよな！



「とあるコンサルタントのつぶやき」

▶ Part 2. 代表的な Windows 10 導入の目的

<https://blogs.msdn.microsoft.com/nakama/2016/08/18/win10waas-part2/>

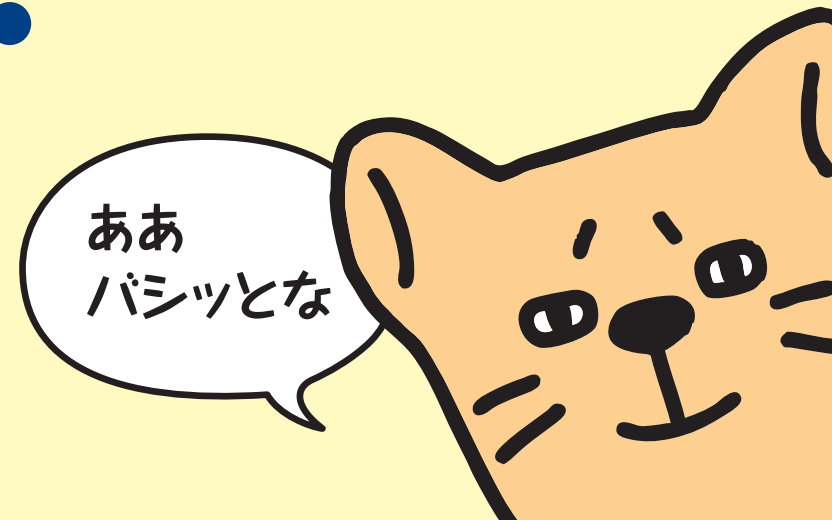


インフラ&アプリ担当者の“今”と“これから”のために。

「WaaSモデルの要点」を Q&Aでバシッと 押さえる!



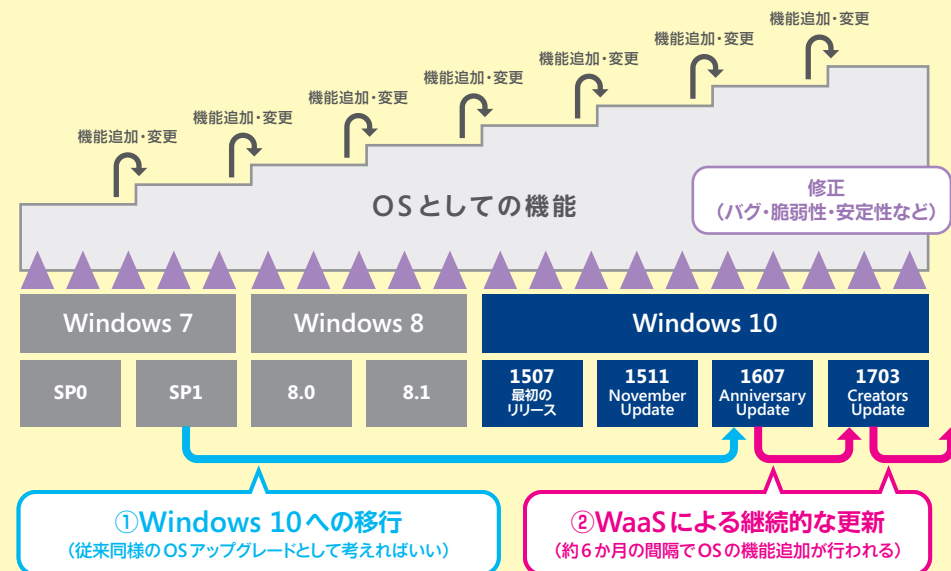
WaaSの
要点を…?



ああ
バシッとな

Windows 10 導入とは、 継続的にアップグレード され続ける環境 へ移行すること。

Windows 7 / 8.1 から Windows 10 への移行そのものは従来とあまり変わりません。しかし、導入後は「WaaS による継続的な更新」への対応が求められます。Windows 10 導入とは、「継続的にアップグレードされ続ける環境」への移行でもあるため、その対応について理解・検討しておくことが重要です。



WaaS モデルへの対応、 お悩みは何ですか？

約半年に 1 度アップグレードが行われる「WaaS モデル」。
その適用方法に関する疑問やお悩みは、主に以下の 4 つに分けられます。
あなたが最も気になるページからお読みください。

Problem 1

Semi-Annual Channel
or LTSC…
どちらを選ぶべき？

「どのブランチを
選択すれば正解なのか
分からない問題」だな

P 8 へ ▶

Problem 2

既存アプリの
互換性検証はどうする？

「半年おきの互換性検証
なんてどう考えても
無理でしょ問題」だな

P 11 へ ▶

Problem 3

この先の
アプリ開発はどうなる？

「環境は進化するのに
アプリ開発はこのままで
いいのか問題」だな

P 15 へ ▶

Problem 4

インフラの
整備と運用はどうする？

「WaaS に合わせて
インフラも変えないと
駄目なのか問題」だな

P 18 へ ▶

Problem 1

Semi-Annual Channel or LTSC… どちらを選ぶべき？



Q

Semi-Annual Channel か、
それとも LTSC か。
正直迷ってます…困ってます…

Windows 10 のブランチは
Semi-Annual Channel にすべきか、
LTSC にすべきか。
IP も、Semi-Annual Channel (Targeted) も
あるし、どれを選べば…



A

OA 端末用途は
「Semi-Annual Channel」のみ。
そもそも迷う必要なんてないんだ

ビジネス向け (OA 端末用途) は
Semi-Annual Channel しかない。
だからそもそも迷う必要なんてないんだよ。



1. Semi-Annual Channel or LTSC…どちらを選ぶべき？

4つの更新モデルがありますが、ビジネスユーザー向けは「Semi-Annual Channel」です。

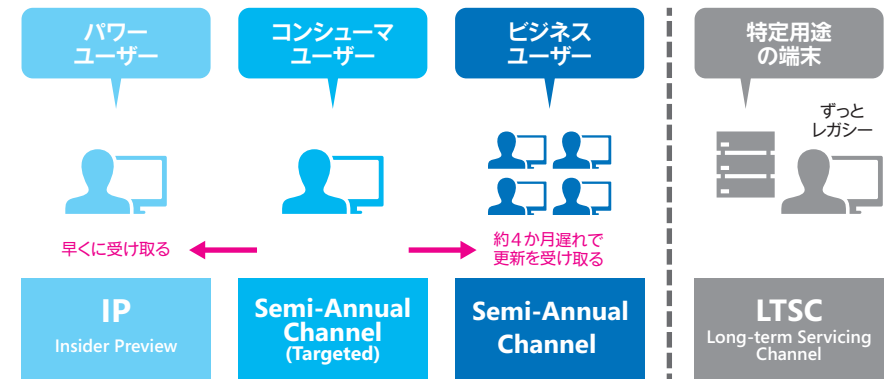
安定性の高い OS が利用できる「Semi-Annual Channel」

Windows 10 では、機能アップグレード (FU) のタイミングを調整できるようになっています。具体的には、IP/Semi-Annual Channel (Targeted)/Semi-Annual Channel/LTSC という 4 つの更新モデルがありますが、ビジネスユーザー向けは「Semi-Annual Channel」しかありません。

- Semi-Annual Channel では、コンシューマ市場である Semi-Annual Channel (Targeted) で 4 か月間揉まれて安定性を高めた Windows OS を利用することができます。

用途に応じて使い分ける

企業内では、大多数の従業員が Semi-Annual Channel を利用します。しかし、IT 部門やコンシューマ向けサービスを提供する部門などではより早い段階で OS の最新機能を試す必要があるため、IP や Semi-Annual Channel (Targeted) を使っていただくことになります。



名称	概要	主な利用者
IP	機能追加の受け取り時期を早める	パワーユーザー
Semi-Annual Channel (Targeted)	4 ~ 8 か月間隔で OS の機能追加を行う	コンシューマユーザー
Semi-Annual Channel	機能追加の受け取り時期を約 4 か月間遅らせる	ビジネスユーザー
LTSC	機能追加を一切受け取らない	特定用途の固定端末



LTSC は、一般的な OA 端末での利用を想定していない特殊なエディション

■ 10 年間パッチのみが提供され続ける特殊なエディション

- ・その間、機能追加・変更は行われない (10 年後には超レガシー端末に…)
- ・インストールメディアも IP/Semi-Annual Channel (Targeted)/Semi-Annual Channel 用とは別の媒体 (Ent-LTSC) を使う

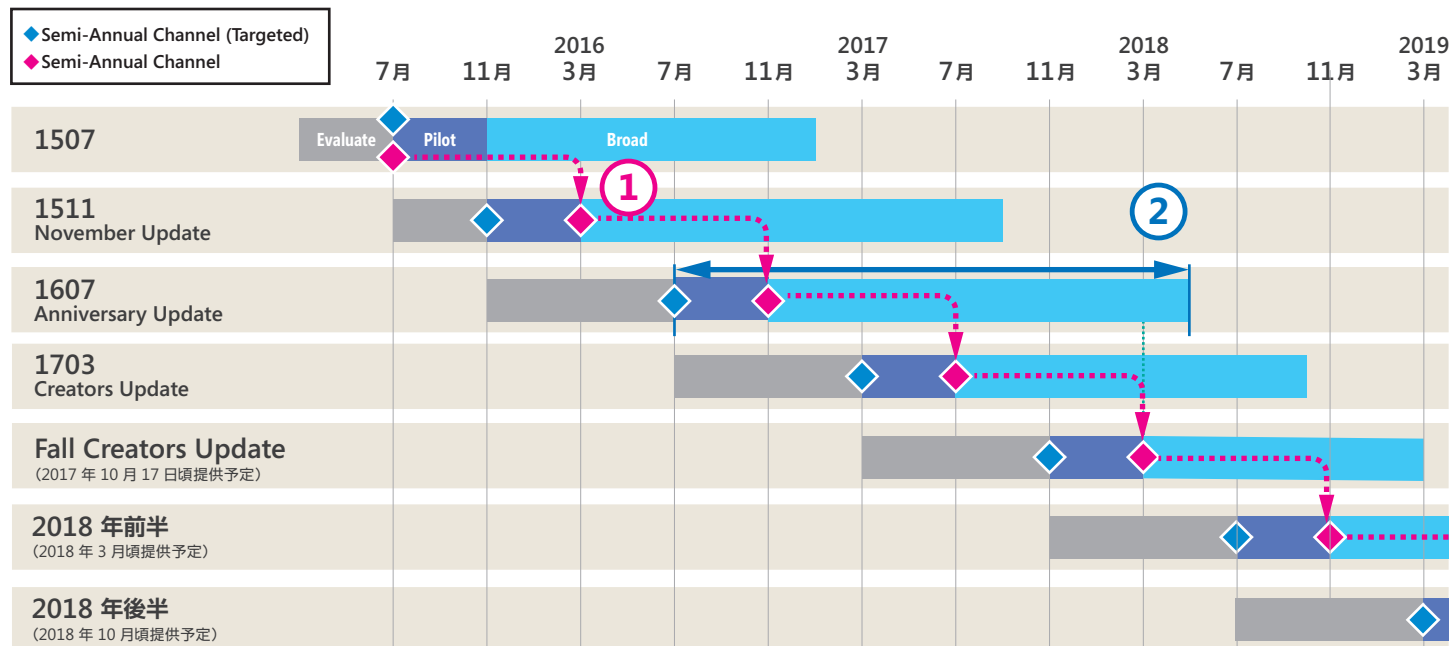
■ 一般的な従業員の OA 端末で利用すべきものではない

- ・製造ラインの据え付け端末、組み込み端末などに利用すべきもの

1. Semi-Annual Channel or LTSC…どちらを選ぶべき？

機能アップグレード(FU)のタイミング

機能アップグレード(FU)の提供サイクルは以下の通りです。



1 推奨アップグレードパス
最新バージョンへの
逐次アップグレードを推奨

2 サポート期間(パッチ提供)
即時アップグレードが難しい企業のため
に、Semi Annual Channel (Targeted)
がリリースされてから 18 ヶ月間まで
パッチ (QU) が提供されます

⚠ スキップは非現実的
FU はスキップせず、必ず順番に
※スキップした場合、Semi Annual Channel
(Targeted) がリリースされてから 18 ヶ月間でアップ
グレードしなければならず、リスクが高いため

FU/QU とは？

機能アップグレード FU (Feature Updates)

- 従来のサービスパックに相当するもの
- OS や Edge ブラウザの更新

品質更新プログラム QU (Quality Updates)

- 従来の更新プログラムに相当するもの
- 脆弱性修正 (セキュリティパッチ) が中心

ちなみに「1507」が
バージョン番号だ



誤解しがちな「WaaS」について、正しい理解を。

何が変わるのか。WaaS の仕組みについて正しく理解したうえで、具体的な検討に入りましょう。

詳しくは、赤間っち Blog

「とあるコンサルタントのつぶやき」

▶ Part 3. WaaS の正しい理解

<https://blogs.msdn.microsoft.com/nakama/2016/08/18/win10waas-part3/>

Problem 2

既存アプリの 互換性検証はどうする？



Q



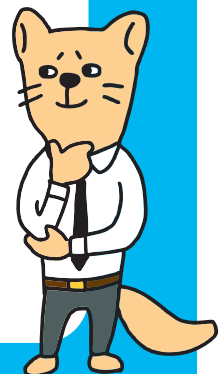
半年おきに再テストするなんて…
どう考えても無理ですよ～

数年おきでも大変だったのに
半年おきに再テストしなければ
ならないなんて…無理ですよ～

A

本当にすべて必要なのかな？
テストの絞り込みを検討しよう

実は、アプリに影響を及ぼすような
機能追加・変更はごくわずかしかない。
テストの絞り込みを検討しよう。



導入後に行う互換性検証の「効率化・省力化」を検討しましょう。

“2つの移行”は分けて考えるべき

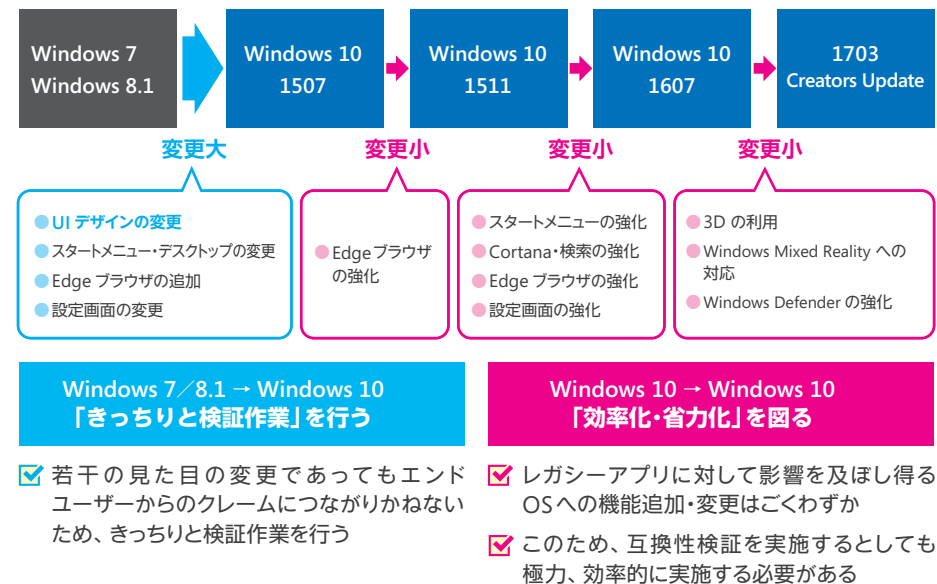
Windows 7／8.1 からの移行では、従来通りの互換性検証を行う必要があります。一方、Windows 10 間の移行では、レガシーな .NET や IE11 のアプリに影響を及ぼすような機能追加・変更はほとんど行われないため、作業の効率化を図ることが重要です。

- Windows 7／8.1 → Windows 10 : 「きっちりと検証作業」を行う
- Windows 10 → Windows 10 : 「効率化・省力化」を図る

互換性検証の効率化手法

互換性検証を効率化するための手法としては、主に以下の 2 つがあります。

- ① テストケースの絞り込み : 実施する非互換検証の物理的な実施量を減らす
- ② 見逃しリスクへの対応 : ①による見逃しリスクを緩和するための施策を打つ



昔に比べて
遙かに高くなっている
OS バージョン間の互換性

■ 特に Windows 7 以降は高い互換性を実現

- Windows 7 以降、製品開発チームの互換性に対するアプローチが大きく変わっており、互換性は 98 や XP の時代に比べて遙かに高くなっている
- 原理的に非互換問題がゼロになることはないが、恐れすぎる必要もない
- カーネル依存性のないデスクトップアプリの場合、少なくとも「まったく動作しなくなる」「クラッシュする」といった致命的な問題はほとんど発生しない

2. 既存アプリの互換性検証はどうする？

互換性検証の効率化手法① テストケースの絞り込み

この中でも特に重要なのが「A」だ



絞り込み方については主に以下の3通りがあり、これらを組み合わせて効率的なテストケースを組み立てます。

A アーキテクチャ情報を元に絞り込む

処理の類似性や技術要素などから絞る

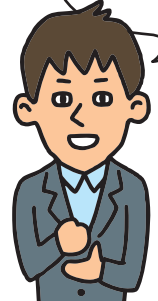
B 業務的観点から絞り込む

重要度の高い業務に絞る

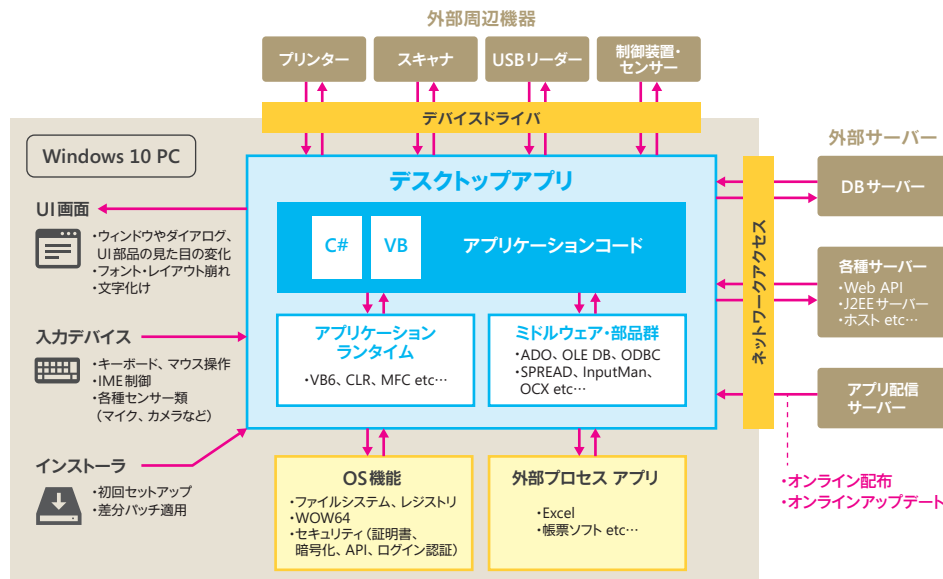
C 実践的な知見から絞り込む

過去の検証結果や探索的テストから絞る

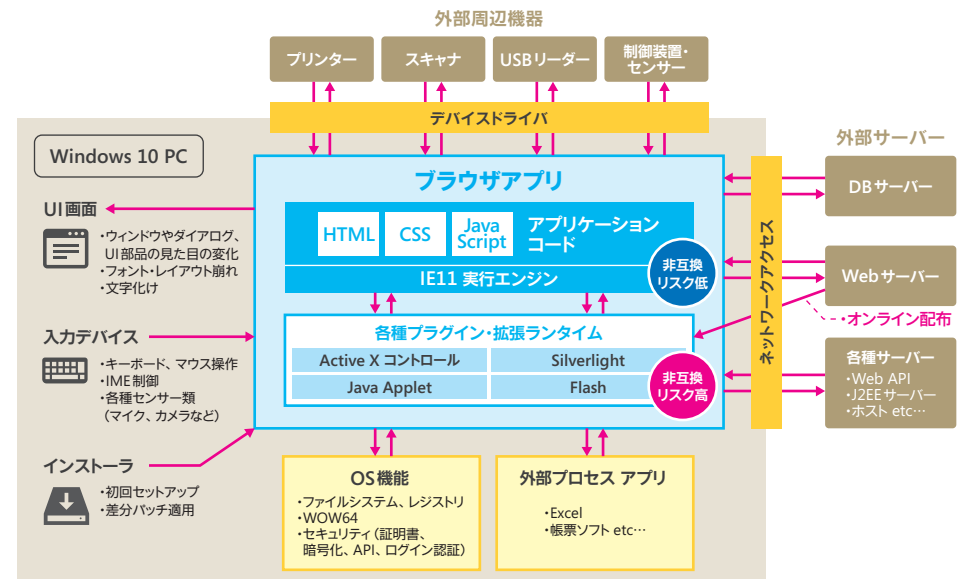
問題が起こりそうなところに絞るんですね



デスクトップアプリの非互換検証ポイント



Web アプリの非互換検証ポイント



- ✓ 実際の非互換問題は上図に示したような「技術的接点」で発生しやすい
- ✓ こうしたパスを少なくとも1度は通るようなテストケースを設計することで、効率的なテストケースを組みやすくなる

- ✓ 業務Webアプリでは、内部でさまざまなプラグインを利用していることが多い。これらはデスクトップアプリと同様の非互換検証が必要になる
- ✓ IE11は基本的に機能変更が入らないが、セキュリティ強化に伴う仕様変更は今後も入る可能性があるため、注意して検証する必要がある

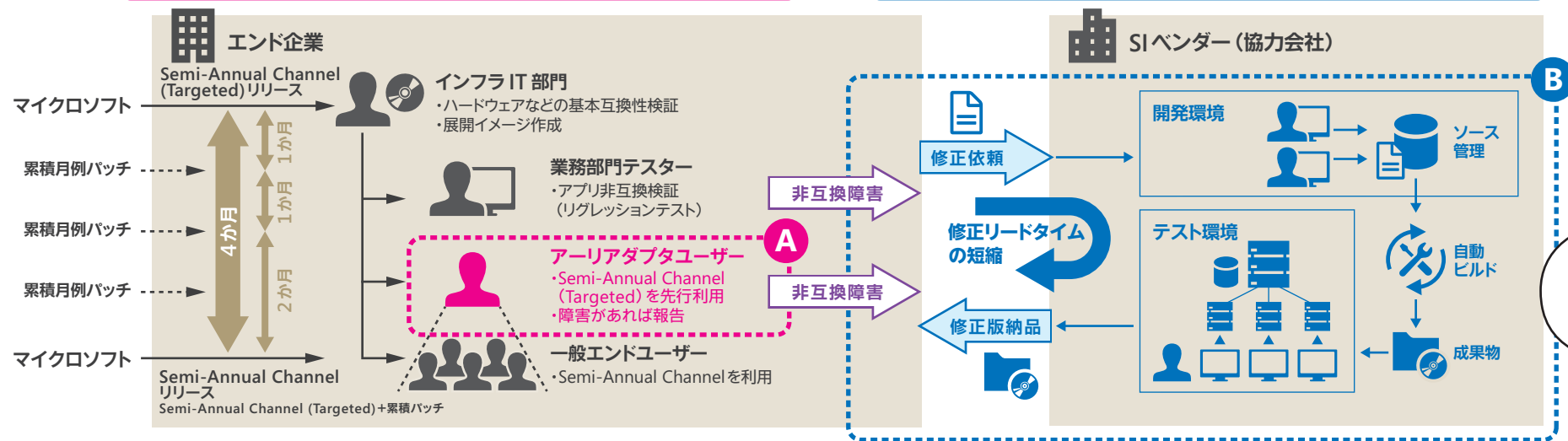
2. 既存アプリの互換性検証はどうする？

互換性検証の効率化手法② 見逃しリスクへの対応

テストケースを絞り込むことで工数を大きく削減できる一方で、非互換問題の見逃しによるリスクもゼロではありません。このため、非互換障害が発生した場合の被害を最小化するための施策（主に以下の2つ）も併せて行う必要があります。

A 一部のアーリアダプタユーザーに対する
Semi-Annual Channel (Targeted) または IP の先行配信
社員の一部に、先行して Semi-Annual Channel (Targeted)
または IP を配布して実業務で使ってもらい、
非互換障害が発生した場合には速やかに修正を行う

B ベンダーとの協業強化による
迅速な障害修正対応フローの確立
特にアプリを外注している場合には
速やかな修正ができる体制を整えておく



既存アプリの互換性検証は、極力、効率的に。

本当に行うべきテストは何なのかを見極め、互換性検証の「効率化・省力化」を図っていきましょう。

詳しくは、赤間っち Blog

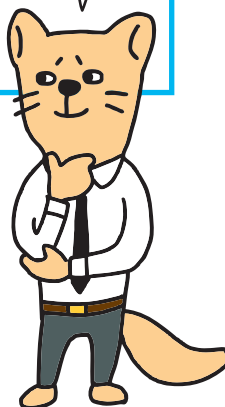
「とあるコンサルタントのつぶやき」

▶ Part 5 (a ~ c). Windows 10 導入時に考え方・やり方を変えるべきポイント – アプリ編①②③

アプリ編① <https://blogs.msdn.microsoft.com/nakama/2016/08/18/win10waas-part5a/>

アプリ編② <https://blogs.msdn.microsoft.com/nakama/2016/08/18/win10waas-part5b/>

アプリ編③ <https://blogs.msdn.microsoft.com/nakama/2016/08/18/win10waas-part5c/>



Problem 3

この先の アプリ開発はどうなる？



Q



今のままのやり方を続けていては
ダメな気がする。でもどうすれば…？

技術はどんどん進化しているのに
開発のやり方はずっと変わらない…
このままでいいんでしょうか？

A

変わることを前提とした
“近代的なアプリ開発”へ移行しよう

変化を前提とした柔軟な開発、
全体最適化された効率的な開発など、
より近代的なアプリ開発を目指そう。



3. この先のアプリ開発はどうなる？

近代的なアプリ開発に向けて、開発スタイルの見直しが必要です。

進化していく基盤上で動作を保証し続ける

未だに多くの企業では、保守フェーズを意識しない“作りっぱなしの開発”が行われています。今後の業務アプリ開発では、「進化していく基盤上で動作を保証し続ける」ことが求められるため、これまでの開発手法や開発に関するガバナンスの考え方を見直す必要があります。

- 開発手法 → 「レガシーアプリ」から「モダンアプリ」へ
- 開発に関するガバナンス → 「個別最適化」から「全体最適化」へ

見直すべき3つのポイント

見直すべきポイントとしては、主に以下の3つがあります（詳細は P17 へ）。

- ① テクニカルアーキテクチャ領域
- ② 画面設計領域
- ③ テスト領域



「短期的な対応策」と
「中長期的な対応策」とに
分けて考えることが大切

■ 短期的な対応策：互換性検証の効率化など“今必要な対応”

- ・既存アプリの互換性検証の効率化（※P12 参照）など

■ 中長期的な対応策：近代的なアプリ開発による“抜本的な改善”

- ・アプリケーション開発の近代化（CI/CD、テスト自動化、DevOps など）
- ・既存システムの技術的負債の解消 など

これまでのシステム開発

今後のシステム開発

開発手法	レガシーアプリ	モダンアプリ
開発基盤	塩漬けの開発基盤	進化する開発基盤
保守作業	後付けの保守作業	最初から保守を想定した開発
ビルド・リリース作業	手作業のビルドとリリース	継続的なビルドとリリース
単体機能テスト	場当たりのデバッグ	ユニットテストツールの積極活用
結合機能テスト	手作業での打鍵結合機能テスト	仮想環境と自動テスト技術の活用
継続的改善	技術的負債の蓄積	定期的なリファクタリング
開発に関するガバナンス	個別最適化された開発	全体最適化された開発
テクニカルアーキテクチャ	バラバラの利用技術	標準化された利用技術
開発作業基盤	個別最適化された開発インフラ	標準化された開発インフラ
テスト実施基盤	個別最適化されたテストインフラ	標準化されたテストインフラ
運用基盤	個別最適化された運用環境と配布方式	標準化された運用環境と配布方式

3. この先のアプリ開発はどうなる？

見直すべき3つのポイント

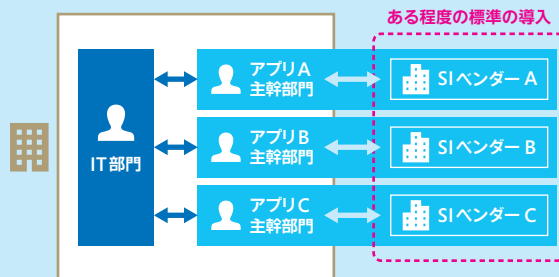
① テクニカルアーキテクチャ領域

部門ごとに異なる SI ベンダーを利用しているため、
全体最適化のアプローチが取りづらい

利用する開発技術と作り方に関する 開発標準の導入

具体的なポイント

- ☑ クラウド PaaS モデルの考え方の利用
→ 運用や配置などの流れを標準化できる
- ☑ 開発技術の標準パターンの策定
→ 開発パターンごとに利用する技術を決めておく



② 画面設計領域

硬直的な UI デザインを採用しているため、
バージョンアップ時にレイアウトが崩れやすくなる

柔軟な UI デザインの採用 (硬直的な UI デザインの回避)

具体的なポイント

- ☑ レスポンシブ対応
→ さまざまなスクリーンサイズへの柔軟な対応
- ☑ 硬直的な UI デザインの回避
→ すべての OS で通用し得る UI デザインを採用する



③ テスト領域

昔ながらの打鍵と人海戦術のままだでは
テストの効率化にも限界がある

1. テスタブルにアプリケーションを開発する

具体的なポイント

- ☑ テスタブルなアプリ開発
→ “テストしやすいように” アプリを開発しておく
ことでテストを大幅に効率化できる

2. テスト駆動型な実装スタイルを確立する

具体的なポイント

- ☑ テスト駆動型 (テストファースト)
→ “できあがってからテスト” するのではなく、
“作りながらテストも開発” する
- ☑ 単体機能 / 結合機能テストをコードとして実装
→ 繰り返しの互換性検証の実施が容易になる



その先を見据えて
じっくり検討してほしい



この機会に、現状の開発スタイルの見直しを。

中長期で考えると、今のままのやり方では厳しいはず。今一度、「理想的な開発」とは何かを検討してみてください。

詳しくは、赤間っち Blog
「とあるコンサルタントのつぶやき」

▶ Part 5-d. Windows 10 導入時に考え方・やり方を変えるべきポイント – アプリ編④

<https://blogs.msdn.microsoft.com/nakama/2016/08/18/win10waas-part5d/>

Problem 4

インフラの 整備と運用はどうする？



Q

今よりもインフラ管理の手間が増えるのでは？ 大丈夫かな…

Windows 10 を導入したら
FU/QU 配信とか、管理の手間が
すごく増えると思うんですが…



A

人手での作業から“自動化”へ。
インフラの管理方法を見直そう

人手での作業には限界がある。
時代遅れの管理方法を見直して
IT インフラの近代化を進めよう。



手作業から自動化へ。 IT インフラ管理の見直しが必要です。

“負の遺産”を清算し、IT インフラを近代化する

日本の企業では、IT インフラ管理に関する“人手での作業”が非常に多く行われています。しかし、昨今のクラウド化の流れや IT 自動化の流れを踏まえると、人手での作業は限界を迎えつつあります。

Windows 10 導入に併せてこうした“負の遺産”を清算し、IT インフラの近代化を進めることが求められます。

見直すべき 3 つのポイント

特に見直すべきポイントとしては、「セキュリティ」「マスタイメージ管理」「FU/QU 配信制御」の 3 つがあります。これらは、従来の考え方を大きく変える必要があるため、中長期的な視点でしっかりと検討を進めましょう。



① セキュリティ

- ✓ Windows 10 のセキュリティ機能の活用方法を考える
- ✓ ハードウェア選定などに関わるため、将来的な利用も含めて検討する



② マスタイメージ管理

- ✓ Excel の情報管理や Word の手順書などに依存した作業を見直す
- ✓ これにより、IT インフラ保守作業の近代化を図る



③ FU/QU 配信制御

- ✓ 継続的な FU/QU 配信ができる仕組みを作り上げる
- ✓ これにより、Windows 10 OS の継続的な最新化を図る



IT インフラの対応策も
「短期」と「中長期」とに
分けて検討することが大切

■ 短期的な対応策：FU/QU 配信インフラの整備など“今必要な対応”

- ・FU/QU 配信インフラの整備、イメージ作成方式の見直し、セキュリティの強化 など

■ 中長期的な対応策：IT インフラの近代化による“抜本的な改善”

- ・継続的な FU/QU の配信、新機能の継続的な取り込み
- ・全社最適化の推進（共用テストインフラ・集約テストチームの運営 など）

4. インフラの整備と運用はどうする？

見直しポイント① セキュリティ

社員の生産性を下げることなく、高度化するセキュリティの脅威に対応していくためには、以下のことを考える必要があります。

安全性と利便性の両方を取る

制限を増やしすぎると社員の生産性が低下してしまう。
安全性と利便性のバランスを考えて適切な落としどころを決める

ルールを増やさず「技術」を活用する

覚えられない & 守れないルールを作るのではなく
「技術」で安全性を高める

セキュリティ機能の活用（具体的な検討ポイント）

セキュリティ機能の活用については、以下の3つのカテゴリに分けて考えると検討が進めやすくなります。

① ID 保護・アクセス制御

（パスワードやトークンを盗まれないようにする）

Windows Hello

（パスワードを使わせない）

Microsoft Passport

（多要素認証を容易に実現）

Credential Guard

（クレデンシャルを盗ませない）

② 情報保護

（機密情報を流出させない）

BitLocker、BitLocker To Go

（端末・USB 紛失時のリスク低減）

Azure RMS

（Officeドキュメントの漏えいリスク低減）

Windows Information Protection

（企業データの漏えいリスク低減）

リモートワイプ

（端末紛失時のリスク低減）

③ 脅威対策

（マルウェア対策、不正検知）

Device Guard

（不正アプリの実行防止）

AppLocker、ソフトウェア制限ポリシー

（不正アプリの実行防止）

Windows Defender

（アンチマルウェア）

Windows Defender ATP

（セキュリティ警告やログの一元管理）



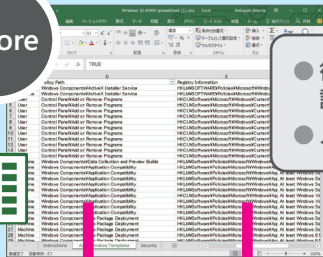
4. インフラの整備と運用はどうする？

見直しポイント② マスタイメージ管理

日本の企業では、Excel による設定値の管理と Word による作業手順書の作成が、今でも多く行われています。
以下のような管理方法の見直しを行い、IT インフラ保守の近代化を図る必要があります。

パラメータシートによる 設定値の一覧管理

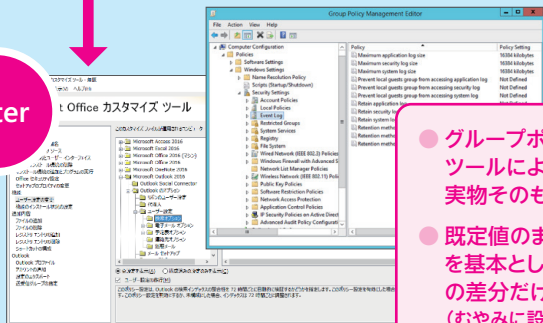
Before



- 従来は Excel ファイルを正として設定値一覧を管理していたが…
- メンテナンスが非常に大変！

After

Office カスタマイズ ツール



これなら僕の負担も軽くなるな

- グループポリシーや OCT ツールによる設定情報の実物そのものを正とする
- 既定値のまま利用することを基本とし、使いたい機能の差分だけを設定する（むやみに設定値を変えない）

- ✓ 増え続けるパラメータを管理し続けること自体に無理がある
- ✓ 「実態」を実物管理し、そこに機能差分を調べて「追加」していくアプローチを採用する

手作業での マスタイメージの作成・保守作業

Before



インストール
手順書

エンジニアが
機種ごとに作成

sysprep

FU リリース時に
イメージを更新

最新版
イメージの
メンテが大変！

After



インストール時の
カスタマイズ内容を検討



MDT/SCCM
タスク
シーケンス

機種ごとの
ドライバ



OS
イメージ

ネットワークインストール



MDT/SCCM
サーバー

定期的に
差し替え

ネットワー
クブートから簡単
にセットアップ
できる

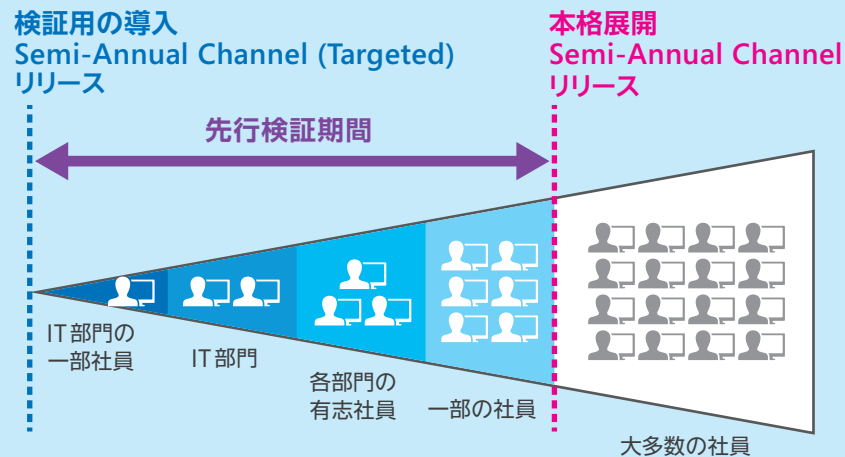
- ✓ 端末種類が増えるとイメージ管理作業が膨大になるため、タスクシーケンスを作成する
- ✓ さらに SCCM を使えば、端末管理作業も大幅に簡素化される

4. インフラの整備と運用はどうする？

見直しポイント③ FU/QU 配信制御

FU/QU の配信では、以下の 2 つのポイントを加味して配信方法を検討する必要があります。

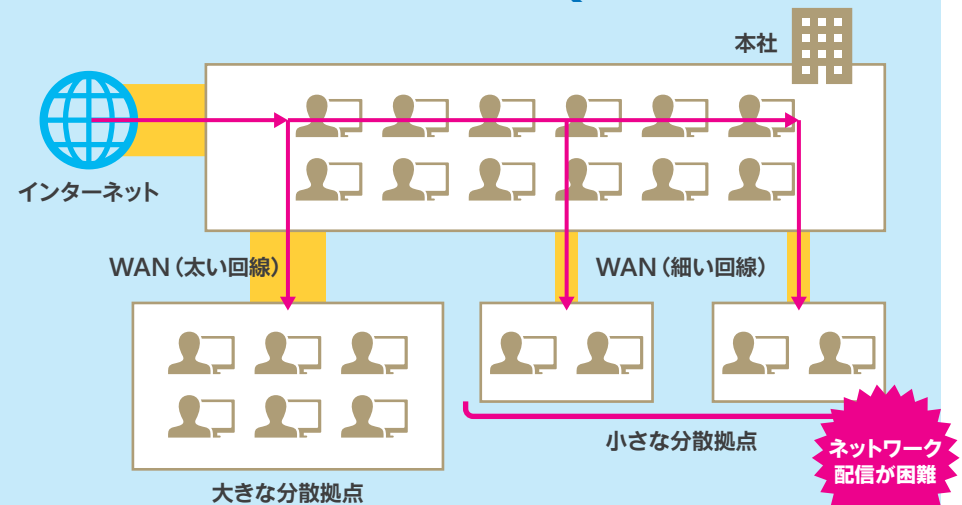
FU/QU 配信制御（段階的な展開）



- ✓ アプリ非互換の見逃しリスク低減のため、FU/QUの段階展開が必要になる
- ✓ Semi-Annual Channelリリースまでに一部ユーザーに先行展開してリスクヘッジする

オンラインで配布
できる仕組みを作って
おくのがポイントだ

分散拠点への FU/QU 配信



- ✓ FUは3～4GB (半年ごと) 程度、QUは累積パッチであるため最大1GB程度 (月次)
- ✓ このため、細いWAN回線を利用している分散拠点については、配信方法の検討が必要 (P2P 配信技術の利用など)



人手に頼らない管理方法の実現へ。

大切なのは、技術を活用し、人手での作業を減らすこと。IT インフラの近代化を目指して管理方法を見直しましょう。

詳しくは、赤間っち Blog
「とあるコンサルタントのつぶやき」

▶ Part 6. Windows 10 導入時に考え方・やり方を変えるべきポイント – インフラ編
<https://blogs.msdn.microsoft.com/nakama/2016/08/18/win10waas-part6/>

まとめ

Windows 10 導入とは、
継続的にアップグレードされ続ける環境 (WaaS モデル) へ移行すること。

1. Semi-Annual Channel or LTSC… どちらを選ぶべき？

- ビジネスユーザー向けは「Semi-Annual Channel」しかない
- 「LTSC」は特定用途向けの特殊なエディション
- IP/Semi-Annual Channel (Targeted)/
Semi-Annual Channel / LTSC を用途に応じて使い分ける

2. 既存アプリの互換性検証はどうする？

- 互換性検証の「効率化・省力化」を検討する
- 効率化手法① テストケースの絞り込み
- 効率化手法② 見逃しリスクへの対応

3. この先のアプリ開発はどうなる？

- 利用する開発技術と作り方に関する開発標準の導入
- 柔軟な UI デザインの採用 (硬直的な UI デザインの回避)
- テスタブルな開発と、テスト駆動型な実装スタイルの確立

4. インフラの整備と運用はどうする？

- 管理の見直しが必要① セキュリティ
- 管理の見直しが必要② マスタイメージ管理
- 管理の見直しが必要③ FU/QU 配信制御

FU/QU での変更点を把握するために。

WaaS モデルへの対応では、FU/QU での変更点を把握することも重要です。
「代表的な情報提供サイト」を Blog で紹介していますので、ぜひ参考にしてみてください。

【代表的な変更ログ情報の提供サイト】

- Windows 10 ロードマップ ● Windows Insider blog ● Microsoft Edge Changelog
- What's new in Windows for developers ● Windows blog for Japan など

詳しくは、赤間っち Blog 「とあるコンサルタントのつぶやき」

▶ Part 7. Windows OS の変更ログの入手方法

<https://blogs.msdn.microsoft.com/nakama/2016/08/18/win10waas-part7/>



なんかワクワク
してきました!
僕やってみます!

よっしゃ 前祝いだ!
飲み行くぞー!

